

優秀賞

避難所解消シミュレーション —復興への道—

山川 直也 (公務員：埼玉県)

本年1月に能登半島地震が発生し、地震被害に対する社会的関心は、ますます高まっています。

そうした中、連日避難所の状況が報道され、必要な支援が届いていないと感じる方々も多いと思います。しかしながら、避難所に必要な支援は、被災状況や地域の特性等によって様々であり、一律ではありません。

そこで、地域特性の異なる避難所の運営責任者となって、いかに避難所を早期に閉所、つまり、その役割を終えられるかをテーマとしたゲームを考えました。

プレイヤーは被災した架空の自治体に設置された避難所の運営責任者となります。受け持つ避難所の特性はそれぞれ都市部、中山間地域、沿岸部等で異なる設定とします。

プレイヤーには、1ターンごとに地域の特性に応じたリソース（資金、マンパワー、生活物資等）が配分されます。プレイヤーはそのリソースを使用し、日々の避難所運営とインフラなどの復旧に取り組みます。

避難所によって必要となるリソースの種類も量も異なるため、他のプレイヤーとの交渉によってリソースの交換等を行えるようにします。また、数ターンごとにゲームイベントとして市長、自衛隊、国等との折衝を行うことができ、ボーナスリソースを得ることができます。

自分が運営する避難所をいかに早期解消できるかが各プレイヤーのゴールではありますが、近隣の避難所との協力を推奨し、地域全体での避難所早期解消も同時に目指していきます。

このゲームを通じて、避難所運営の難しさ、行政等の役割、地域特性によって異なる支援へのアプローチなどを学ぶことができればと思います。